人間国宝

森口邦彦

友禅／デザイン　交差する自由へのまなざし

MoMAK
The National Museum of Modern Art, Kyoto

Press Release

友禅の技法で重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）の認定を受けている森口邦彦。森口はパリで学んだグラフィック･デザインの思考と幾何学文様を大胆に組み合わせることで､伝統工芸の「友禅」に留まらない新しい創作の可能性を拓いてきました。着物制作から三越のショッピングバッグに代表されるデザインワークまで、森口の創作は、歴史的に積み重ねられてきた技と感性を出発点に社会に友禅･デザインを還元させるための実践であるといえます。本展では、友禅とデザイン、伝統と現代、東洋と西洋などが様々に交差して生まれる森口邦彦の創作活動の全貌をご紹介いたします。

①

第一章　着物／草稿

1967年に父・華弘の工房で友禅に従事しはじめて以降、森口邦彦は、「着物」という形式にこだわって創作活動を続けてきました。着物は人の体に巻かれることで着られるものです。そのために身体とのかかわりの中で模様と形態との関係が二次元から四次元まで自在に変化する特殊な立体物となります。森口はこの着物の特性に自覚的であり､水平や垂直､斜めからなる幾何学的抽象性を有した模様を、裾から袖にかけて徐々に変化させることで、女性の身体を美しくみせることのできる着物を生み出してきました。ここにはフランスで学んだグラフィック・デザインやオプ・アートの手法が応用されています。また、森口は、着物制作に先立って膨大な量の草稿を描いています。これまで森口の草稿は、展覧会ではあまり紹介されることはありませんでしたが、草稿上の変化は、森口が創作において重視する要点が直接に表れているという意味で、作家の思考そのものだといえます。

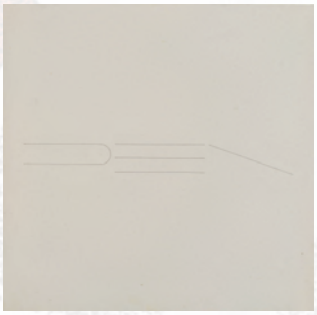
②

第二章　京都／パリ 習作の時代

森口邦彦は、友禅作家である華弘の次男として生まれます。同志社高等学校時代は日本画家で東丘社塾生の市川洋に師事し、京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）では上村松篁、榊原紫峰、秋野不矩ら近現代日本を代表する日本画家のもとで日本画を学んでいます。大学卒業後は、フランス政府給費留学生として渡仏し、約三年間をパリの国立高等装飾美術学校に学んでいます。なお、フランスにおける森口の指導教官の一人が、スイス出身でバウハウス（ヨハネス・イッテン）の系譜をひくジャン・ウィドマーでした。森口は京都で日本画の写生と線や面で対象を描き出す技術を、フランスでは、アカデミックな教育の中で対象を正確につかむための技術と応用力、デザインの技術や構成力、さらにグラフィック・アートやオプ・アートの手法を身につけています。これら様々な美術や技術を学んだ上で、森口は父の工房で友禅制作に従事し、「友禅」と自覚的に出会っていくのです。

③

④



⑤

⑥

第三章　友禅 × デザイン

森口邦彦は、着物の制作を創作活動の主体に置いていますが、一方で平面作品の連作も定期的に発表してきました。それらの作品は《線の截り方》や《コバルト》からもわかるように、友禅の糸目糊置き技法を用いつつ、線の長さや密度によってある図形を浮かび上がらせるもの、あるいは《キュービック・マジック》や《シャドウ・マジック》、《緑の研究》、《二十四節気》のように友禅技法を用いながら純粋に図形の展開の面白さをパターンの中で追求するものなどがあります。特に連作の中で図形が様々に変転していく様は、ある法則性を根底に持ちながらも、図形自らが法則性を破っていこうとするような自律する意志をも感じることができます。風炉先屏風も含めたこれら平面性の強い作品は、身体と模様との関係を念頭に置いて制作が行われる着物とは異なり、構想したアイデアをそのまま平面的に表現できるという点で森口のグラフィック力が直接に表れたものだといえます。

⑦

第四章　「実り」デザインを日常へ

2014年に、日本を代表する老舗百貨店の三越は、それまでのショッピングバッグのデザインを一新しました。新たなデザインは森口邦彦によるもので、第60回日本伝統工芸展出品作《友禅着物 白地位相割付文「実り」》から応用された模様をショッピングバッグの立体性に即して構成しなおしたものです。この経験が、森口にとっての画期的であったと思われるのは、「実り」のショッピングバッグの発表に際して行われた対談の中で、自ら「ほら、今回は多くの人に向けて作れたよ」とある友人に向けた言葉を発しているからです。この友人は、かつて森口の高価な着物がある特定の人にだけ向けられているのではないかという疑問を投げかけた人物であり、この問題提起が、長年、森口にとって自身と社会との関係を考える根底にありました。その意味で、森口のデザインとは、自身の感性を介して社会とかかわり、社会に豊かさをもたらすことを目的とした伝統と現代、個人と社会との結束点だといえます。

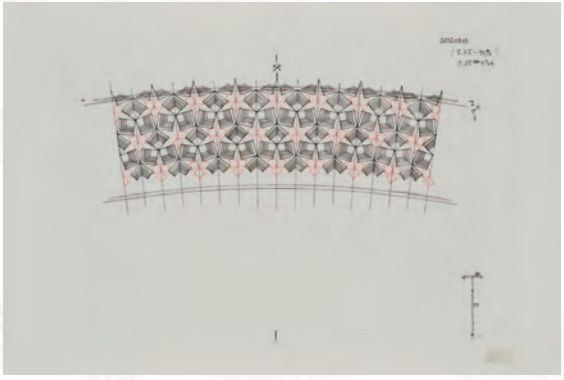
⑧

第五章　クロス・トランスミッション：森口邦彦 × セーヴル

森口邦彦とフランスの国立陶磁器製作所であるセーヴルとの関係は、責任者のロマーヌ・サルファティが森口の着物をみて深い感銘を受けた2015年に始まります。そして2016年に開始されたのがセーヴル・マニファクチャーの職人と異文化／異分野の伝統の技を持つ創作者との間に対話の場を設け、お互いに学びあうことを目的とした「クロス・トランスミッション」というプロジェクトです。共同作業の成果は、まず森口がデザインしたコーヒーセット「実り」として結実しました。対話と制作を進める中で凹状のソーサーの形状は平らなものに作り替えられ、その面に森口はセーヴル磁器の白地の美しさをいかした「実り」のデザインを配しました。この過程において、職人たちが余白とモチーフの関係、平面と立体との関係を再発見したことで、現在、絵付け職人が自らの創造性を掘り起こし、長年の修練で身につけた技術とセーヴルの伝統、そして森口のアドヴァイスを介してデザインを展開させていく新たな段階に入っています。

⑨

⑩



⑪

人間国宝

森口邦彦

友禅／デザイン　交差する自由へのまなざし

MORIGUCHI Kunihiko

Yuzen Design

Crossroads of Creativity

The National Museum of Modern Art, Kyoto

会期　~~5月23日（土）～7月12日（日）~~　10月13日（火）～12月6日（日）

※会期中に一部展示替えがあります

前期：10月13日～11月8日／ 後期：11月10日～12月6日

会場　京都国立近代美術館（京都市左京区岡崎円勝寺町）

開館時間　午前9時30分～午後5時 ただし金、土曜日は午後8時まで開館

＊入館は各閉館時間の30分前まで

休館日　毎週月曜日、11月24日（火）＊ただし11月23日（月・祝）は開館

観覧料　一般：1,000円（800円）、大学生：500円（400円）

※（ ）内は20名以上の団体および夜間割引（金、土曜 午後5時以降）

※ 高校生以下・18歳未満は無料*。

※ 心身に障がいのある方と付添者1名は無料*。

* 入館の際に証明できるものをご提示ください

※ 本料金でコレクション展もご覧いただけます。

主催　京都国立近代美術館、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、日本経済新聞社、京都新聞

特別協力　三越伊勢丹ホールディングス

HP・SNS　https://www.momak.go.jp/

＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館時間、休館日は変更になる場合があります。
ご来館前にホームページなどで最新情報をご確認ください。

①友禅着物「千花」1969年
②友禅着物「千花」のための草稿　1969年
③杜若 1959年
④グラフィック課題「オプ・アート」1965-66年
⑤グラフィック課題「PEN広告／タイポグラフィ」1965-66年
⑥グラフィック課題「ジャルダン・デ・モード社 クリスマスカード」1965年
⑦コバルト8　1986年
⑧三越ショッピングバッグ「実り」2014年
⑨森口邦彦／ベルトラン・ノヴィ　東洋／西洋 2020年 国立セーヴル美術館
⑩カップ・アンド・ソーサー「実り」（一対）2016年
⑪カップ・アンド・ソーサー「実り」のための草稿　2016年
⑫友禅着物「雪明り」1969年 京都国立近代美術館蔵
⑬友禅着物 白地位相割付文「実り」2013年 三越伊勢丹ホールディングス蔵

⑫

⑬

関連イベント

NFAJ所蔵作品選集 MoMAK Films2020 森口邦彦展関連上映　フランス映画特集（仮）

日時　11月28日（土）、29日（日）いずれも午後2時から　『別れの曲』（1934年）ほか

料金　1プログラム 520円（オンライン事前予約制のみ）

※中学生以下無料

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料（要証明）

※当日に限り、本券でコレクション展もご覧いただけます

定員　先着20席

会場　京都国立近代美術館　1階講堂

主催　京都国立近代美術館（MoMAK）、国立映画アーカイブ（NFAJ）

別れの曲

＊上映作品、各回のスケジュールについては当館HPをご確認ください。
＊そのほかの関連イベントについても、そのつど当館HPなどでご案内いたします。

お問合せ

「人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」広報事務局（株式会社 TMオフィス内）
〒541-0046 大阪市中央区平野町 4-7-7 平野町イシカワビル 8 階
担当　馬場・清水・松ヶ根
TEL　06-6231-4426　FAX　06-6231-4440　E-mail　moriguchi@tm-office.co.jp